



ガーン
ガーン
ガーン



ところが、

とても大きな杉の木なので、

あんまり切らんうちに 日が暮れてしもうた。

「はあー、くたびれたでえ。

今日は これで おしまいにしようや。

また

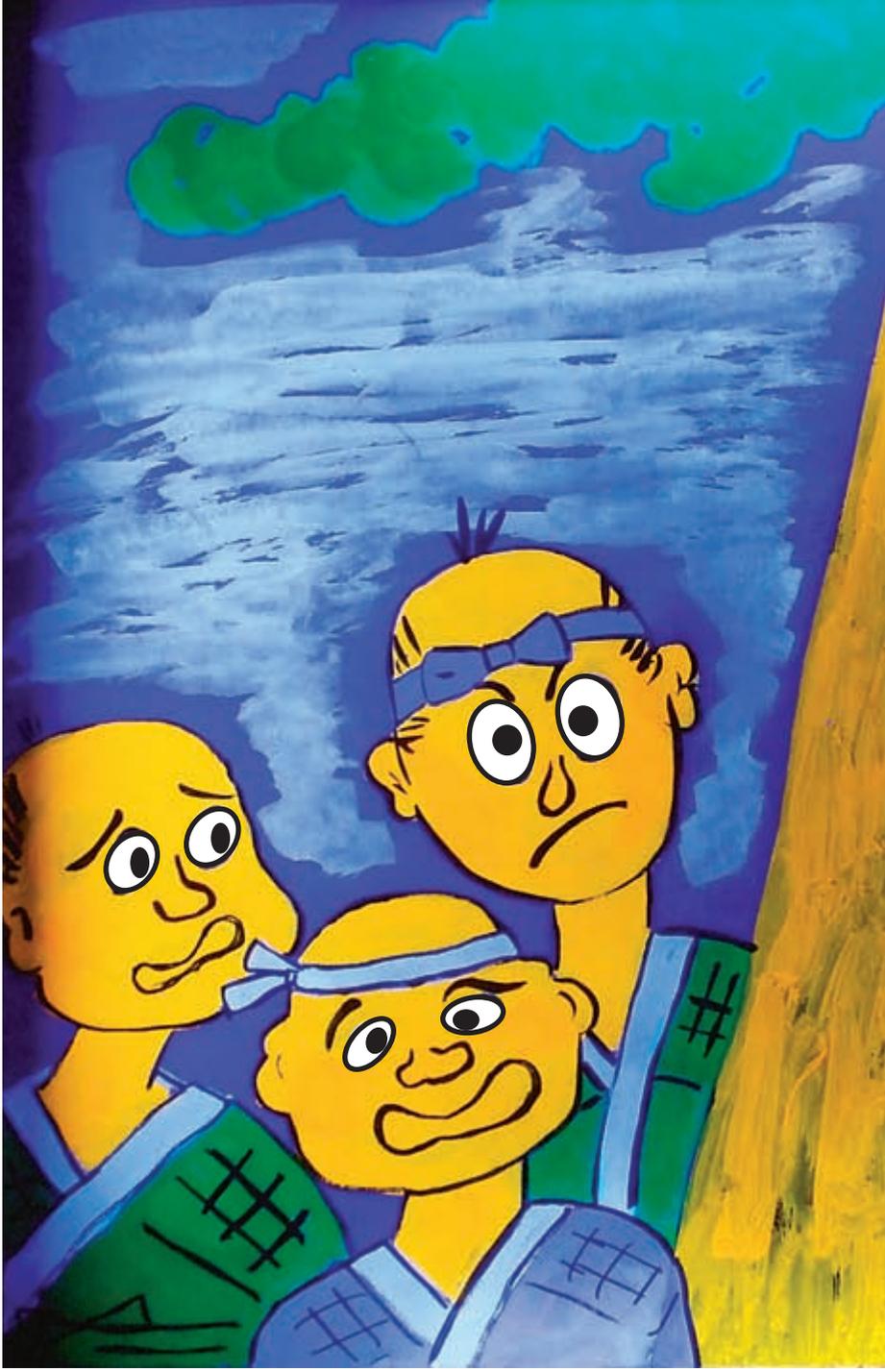
あした 続きをやるうや。」



つぎ ひ あさ
次の日の朝、

おおすぎ み
大杉を見て、

みんな 目を丸くして おどろいたそうなの。



「ごりゃあ、

どうしたんかいのう。」

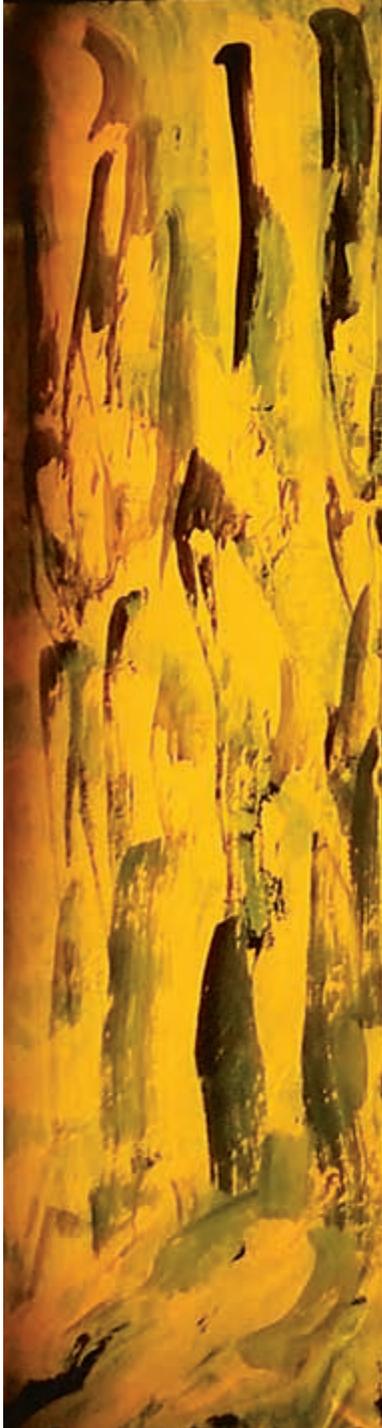
「ありゃ、

ほんまじゃ。ほんまじゃ。

切り口^{きぐち}が みんなのうなって かげもかたちもねえ。

「きのう 切^きった所^{ところ}が 元^{もと}通りにな^{おと}つとらあ。」





みんなは、おかしい、おかしいと思おもいながらも、
また、大杉おおすぎを切きり始はじめたんじゃ。

ゴ—リ

ゴ—リ

ゴ—リ

ゴ—リ

しかし、今日けふも また、

あんまり切きらんうちに日ひが暮くれてしもうたんじゃと。